

新型コロナウイルス感染症に関連する主なできごと

令和2年12月29日～3年3月28日 市発熱外来の設置

1月 11日 市成人式をオンラインで開催①
30日 国埼玉県で変異ウイルスにより国内初のクラスターが発生

2月 14日 国ファイザー社製の新型コロナウイルスワクチンを国内初承認
17日 国医療従事者向けにワクチン接種を開始

3月 1日 市窓口混雑状況をリアルタイムで表示するサービスを開始
13日 市市制施行50周年を迎える記念式典は延期に
31日 市ワクチン集団接種の模擬訓練を実施
31日 国全国で初めて大阪府がまん延防止等重点措置を国に要請

4月 27日 国65歳以上の成人へのワクチン接種を開始
17日 国医療従事者などに個別・集団でのワクチン接種を開始
12日 国防衛省・自衛隊による大規模接種センターの開設を指示

5月 21日 市自宅療養者に対する生活支援を開始
15日 市65歳以上の成人を対象にワクチン集団接種を開始
12日 国モデルナ・アストラゼネカ社製のワクチンを承認

6月 1日 市60～64歳の成人を対象にワクチン集団接種を開始
8日 市65歳以上の成人を対象にワクチン集団接種を開始
17日 市大規模接種センターで18～64歳の成人への接種を開始

7月 26日 国全国の自治体でワクチンパスポートの申請受付を開始
26日 国東京2020オリンピックが開幕市出身の4選手が出場②
26日 国全国の自治体でワクチンパスポートの申請受付を開始

8月 5日 市40～59歳の成人を対象にワクチン集団接種を開始
6日 市全国の感染者数が100万人を超える
23日 国妊婦にワクチンを優先接種するよう自治体に通知
24日 国東京2020オリンピックが開幕③

9月 1日 市医師による電話相談サポートを開始
3日 市患者累計が1000人を超える
12日 市12～39歳の成人を対象にワクチン集団接種を開始
14日 国受験生にワクチンを優先接種するよう大学や自治体に要請

10月 1日 市伊勢原観光道灌まつりが2年連続中止
4日 市大規模接種センターで16～17歳の人への接種を開始
16日 市子育て応援フェスタ2021をオンラインで開催

11月 5日 国抗体カクテルを予防薬として特例承認
13日 市延期していた市制施行50周年記念式典を開催④
20～21日 市サポセンフェスタ2021をオンラインで開催

12月 1日 市キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーン(第2弾)



新型コロナウイルス関連情報

ワクチン接種(1・2回目)予約の追加受付

受付開始日 ①12月6日(月)②12月27日(月)※接種日など詳しくは、市ホームページをご確認ください

予約方法 手続きには接種券番号が必要です

電話の場合 予約専用ダイヤル(☎0120-080-955)に連絡し、接種券番号と生年月日をお伝えください。

インターネットの場合 市ホームページ「新型コロナウイルスワクチンWEB予約受付」から、または右のQRコードから予約できます。

ワクチン追加接種(3回目)のお知らせ

3回目の接種について、2回目の接種後8カ月以上経過した人を対象とする方針が国から示されました。本市もこれに基づき実施してまいります。

スケジュールなどは決まり次第、市ホームページや広報などでお知らせします。

健康づくり課 ☎92-1117

市長メッセージ

市民の皆さまには、日ごろから新型コロナウイルス感染症の予防対策にご協力いただき、心より感謝を申し上げます。

今年度は、ワクチン接種の対応に専念した年であったと思います。5月から集団接種を開始し、順調に進めることができました。現時点で対象人口の8割を超える方が2回の接種を受けられました。今後も希望される方が安心して接種を受けられるよう接種体制を維持してまいります。

現在感染状況は落ち着いておりますが、新型コロナウイルスは消滅したわけではありません。市として今後もウイルスを念頭に置いて徐々に活動を再開していくこととなります。新しい生活様式の実践に向け、IT情報技術を活用した行政サービスの利用促進により感染機会を削減に努めるとともに、非接触型のキャッシュレス決済ポイント還元事業により地域経済の活性化を図るなど、新型コロナウイルス対策に取り組んでまいります。

第6波も心配なところですが、これから本格的な冬を迎え、インフルエンザの流行も懸念されています。これまで同様基本的な感染防止対策が大切です。皆さまには引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

伊勢原市長 高山 松太郎



医療を守り、社会を守る

激動の日々、そしてこれから

国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認された昨年1月16日から数えて約2年。マスクの着用や身体的距離の確保、消毒の徹底といった生活様式が日常に定着してきた令和3(2021)年。

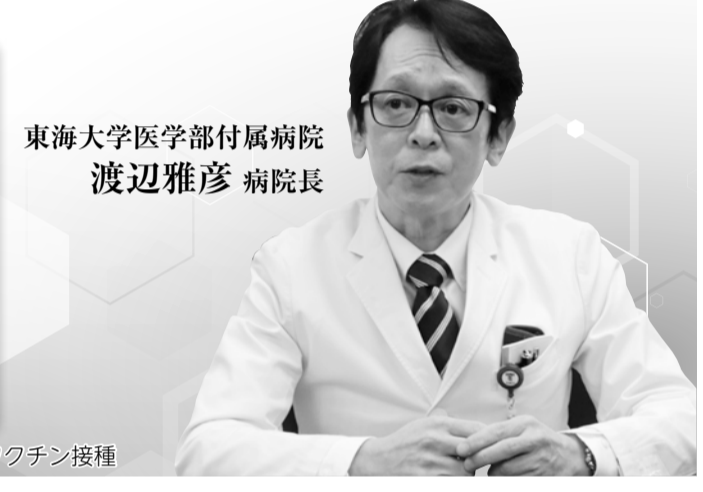
感染の波が何度も打ち寄せ、私たちの生活に暗い影を落とし続けました。それでも、医療従事者は自身や家族の感染という危険と隣り合わせの中、強い使命感を持ち、最前線で医療体制を守っています。

湘南・県西・一部県央地域の三次救急医療施設として、重症救急患者の診療をしている東海大学医学部付属病院(下槽屋)。その病院長である渡辺雅彦医師に医療現場の様子や今後の展望についてお話を伺い、あらためて感染症の傾向や対策を知り、ウィズコロナ時代を生きていくために必要なことを考えます。

※インタビューは11月2日に実施しました



①医療処置を行う様子 ②職員に指示を出す渡辺病院長(中央) ③救命救急現場の看護師 ④医療従事者へのワクチン接種



はじめに、今年の医療現場の状況を教えてください。

昨年からの感染者数が急速に増え、第3波と称されました。今年に入ってから、さらに多くの重症者が入院され、医療体制のひっ迫を感じました。

7月からの第5波も非常に多くの重症者が発生し、県によると感染者のほとんどがデルタ株*1に置き換わったとされています。

8月のピーク時には、院内804床のうち108床を休床し、全職員が一丸となって新型コロナウイルス対応に注力しました。

しかしながら、当院が一般救急の受け入れを止めてしまうと地域の医療が成り立たなくなってしまう。常に双方に対応できるように努めてきました。ただし、新型コロナウイルスの重症患者への対応には人手が必要なため、治療に急を要さない患者さんには少しお待ちいただき、これらの波をなんとか乗り越えました。

私たち医療職が感染し、動きが止まってしまうと社会に与える影響は計り知れません。このため、より一層の感染症対策を職員にはお願いしてきました。

職員も生身の人間ですので、それなりに閉塞感もあったと思いますが、新型コロナウイルスと通常診療の両立を大きなトラブルなく継続できていたことは、職員の使命感あってこそ感謝しています。

*1インドで最初に検出された感染力が強い変異株の一つ

昨年と比較して医療提供体制に変化はありましたか

第5波はワクチン接種により、今までとは打って変わって、高齢者の入院は劇的に減りました。しかし、感染者数がこれまでと比べものにならないほど多かったため、16～50歳くらいのさらに症状の重い人たちが多く入院されました。

一方で、高齢者と比較して回復力が高いため、ECMO*2や人工呼吸器から復帰し元気になられる人も多くなりました。

*2人工肺によって酸素と二酸化炭素の交換ガス交換を行う治療法のこと

次に、新たな治療法についてお聞かせください

軽症のうち経口治療薬*3でウイルスの増殖を抑制し、重症化を防げるようになる予定です。年内にも国によって特例承認される可能性もあります。重症化や死亡リスクを半減できるというデータがあり、これが普及すればインフルエンザウイルスのような病気になることも期待されています。

他にも、抗体カクテル療法*4があります。当院では重症患者の受け入れがメインですので、まだ数例ですが、重症になる人を減らすといった意味でもとても重要になってくると思います。

*3 11月4日にアメリカのメルク社とリッジバックバイオセピューティブ社が開発したモルヌピラビルという飲み薬が、世界で初めてイギリスで使用承認された

*4 二種類(カンシリマブとイムティマブ)の抗体を混ぜ合わせて使用するコロナプリープという薬剤を体内に注入する治療法

最近になり患者数が減少している要因は何だと考えますか

はつきりとは分かっていません。けれど、一人一人が新しい生活様式を取り入れ、感染対策を講じた上で、ワクチン接種が順調に進んでいったことが大きいと感じています。

最近では、ウイルスの変異についてあまり報道されていませんが、毒性が弱くなる方向に変異していることを願っています。

第6波が来ると想定した場合、どのように対応しますか

これまでの経験をもとに新型コロナウイルスを再開し、治療を行います。県からの要請により、3週間

また、コロナ禍とはいえ受診控えは健康上のリスクを高める可能性がありますが、何か体調の不具合があれば、必ず早めに医療機関で必要な診療を受けてください。

国内の感染者数は減少傾向にあります。当院でも減っており、10月末現在で感染している人はいません。しかし、これが本当に減少しているのか、一時的なものなのかは分かりません。

皆さんにおかれましても、2年近くこれだけ制限された生活を送ったことはいけません。ただ、もうしばらくは感染に注意していただき、ある程度は普通の生活に戻して、引き続きウィズコロナとして、手洗いやマスクの着用、3密を避けるなどの基本的な対策は行っていただきたいと思っています。

最後は、市民の皆さまへメッセージをお願いします

今年度は、ワクチン接種の対応に専念した年であったと思います。5月から集団接種を開始し、順調に進めることができました。現時点で対象人口の8割を超える方が2回の接種を受けられました。今後も希望される方が安心して接種を受けられるよう接種体制を維持してまいります。

現在感染状況は落ち着いておりますが、新型コロナウイルスは消滅したわけではありません。市として今後もウイルスを念頭に置いて徐々に活動を再開していくこととなります。新しい生活様式の実践に向け、IT情報技術を活用した行政サービスの利用促進により感染機会を削減に努めるとともに、非接触型のキャッシュレス決済ポイント還元事業により地域経済の活性化を図るなど、新型コロナウイルス対策に取り組んでまいります。

第6波も心配なところですが、これから本格的な冬を迎え、インフルエンザの流行も懸念されています。これまで同様基本的な感染防止対策が大切です。皆さまには引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

伊勢原市長 高山 松太郎